

モデルプログラム F-3 言語と認知の発達
－「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント (DLA)」を体験する－

ねらい	日本語の力を、基礎的な会話、基本語彙、読み・書きなどから多面的に捉えることの重要性を理解し、その方法の一つである文部科学省「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」の実施方法を、体験を通して理解し、実施することができるようになる。								
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生 (教員養成課程他) <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員								
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1 年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4 年 <input checked="" type="checkbox"/> 5-9 年 <input type="checkbox"/> 10 年以上								
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力 (子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力 (社会的背景の理解) <input type="checkbox"/> 育む力 (日本語・教科の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力 (異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力 (学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力 (地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力 (多文化共生社会の実現) <input checked="" type="checkbox"/> 変える/変わる力 (教師としての成長)								
主な内容	F 言語と認知の発達								
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習								
時間	90 分								
流れ (・項目)	活動 (◇活動の工夫)								
1. 言語の力の多面性、多様な把握方法を知る。(15 分) ・言語能力の捉え方(F)	1. 言語の力にはどんな側面があり、その力を把握するためにどんな方法があるかを、自身の経験をもとに、話し合う。 1) 知っている言語力把握の方法を話し合い、結果を表にする。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>言語の力</th> <th>把握方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>例) 語彙</td> <td>・絵カードを見せ、その語を言わせてチェックする ・母語の語を、日本語に訳させる</td> </tr> <tr> <td>例) 文字</td> <td>・教師が言った音を聞いて、文字を書かせる。</td> </tr> <tr> <td>例) 書く力</td> <td>・テーマを決めて、作文を書かせる。</td> </tr> </tbody> </table> 2) 作成した表を見ながら、「滞日期間」「把握したい力」によって、どの測定の方法が合うのか、また、どう測定すべきか話し合う。	言語の力	把握方法	例) 語彙	・絵カードを見せ、その語を言わせてチェックする ・母語の語を、日本語に訳させる	例) 文字	・教師が言った音を聞いて、文字を書かせる。	例) 書く力	・テーマを決めて、作文を書かせる。
言語の力	把握方法								
例) 語彙	・絵カードを見せ、その語を言わせてチェックする ・母語の語を、日本語に訳させる								
例) 文字	・教師が言った音を聞いて、文字を書かせる。								
例) 書く力	・テーマを決めて、作文を書かせる。								
2. DLA の考え方等について知る。(10 分) ・学習言語能力と生活言語能力(F)	2. DLA の考え方・実施方法について講義を聞き、次の点を理解する。 ・言語能力の三側面：会話の流暢さ、弁別的言語能力、学習言語能力 ・測定する言語能力：潜在的な力を対話によって引き出す ・判定の方法：JSL 評価参照枠により総体的に捉える ・実施の基本的なステップ								
3. DLA の「はじめの一步」を体験する。(15 分)	3. DLA の「はじめの一步」を体験し、会話力と語彙の調査方法を理解する。 1) ペアで調査者と子ども役を決めて、DLA の (冊子又は web でダウンロード) 「はじめの一步」で示されている方法に従い会話と語彙の測定を行う。 ◇事前に実施方法の頁と診断シートの印刷、絵カード作成を課しておく。 2) 体験してみて気づいたこと・感じたことについて、話し合う。								
4. 4 つの技能の中から 1 つを選んで、体験する。(35 分)	4. DLA 「話す」「読む」「聞く」「書く」のいずれかを、ペアで実施する。 ◇事前に、DLA 冊子の各技能の実施方法に関する部分と診断シートの印刷、各技能の測定に必要なツールを印刷して持参するように伝える。								
5. DLA の結果を指導にどう利用するか話し合う。(15 分)	5. DLA の実施体験をもとに次の点について話し合う。								

<ul style="list-style-type: none"> ・日本語のコース設計の手順(I) ・外国人児童生徒等教育の専門性の向上(N) 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日常の指導で把握している力と DLA によって測定できる日本語の力の違いを意識し、DLA をどのように実施できるか、また、その結果を指導にどう活かせるか考え、意見交換する。 2) 日本語の力の捉え方について気づいた点や、評価方法や測定結果の見方について、今後留意したい点について話し合う。
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DLA の冊子に実施方法の詳細が記載されており、指示に従えば実施できる。参加者には、該当ページの印刷や必要な絵カードの作成などを課しておき、持参してもらうようにする。 ・60 分で実施する場合は、1 を割愛する。全技能の体験には、180 分程度の時間を見込む必要がある。